

令和2年度の地域連携センターの活動も、おかげ様で一部を除きすべてのイベントを終了いたしました。「地域連携センターニュース vol.14」では、下半期の活動を中心にご紹介します。令和3年度も地域の皆様と連携し、活動を行って参りますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

Topic1

K-ARC シンポジウムの開催

11月19日(木)に「～KOSEN コア・コンピタンスによる社会実装戦略～産学官における KOSEN の役割」をテーマに、「K-ARCシンポジウム 2020」を鶴岡メタボロームキャンパスで開催しました。

基調講演では、国立高等専門学校機構の井上光輝理事から、新材料開発や大型外部資金の獲得といった自身の研究実績の紹介がありました。

次いで、同機構の和気仁志総括リサーチ・アドミニストレーター(KRA)から、産学連携による社会実装の拡大に向けた KRA システムのあり方、東北大学産学連携機構の遠藤憲子特任教授からは、産学官連携によるオープンイノベーションについてご講演いただきました。

引き続き、鶴岡市商工観光部の坂口礼奈商工企画主幹より、鶴岡市と本校との連携事例、奈良高専の山田裕久准教授と一関高専の原圭祐准教授、本校の佐藤涼特命准教授より、他高専教員との連携や外部資金獲得活動等についてお話しがありました。



Topic2

産業技術フォーラムの開催(全2講)

「産業技術フォーラム」は、各界で研究実績を積み重ねてきた研究者・技術者による専門分野の最先端情報を企業・市民の方に解りやすく解説する講座で、鶴岡高専技術振興会と共催しております。

<第52回> 11月27日(金) 開催

国立研究開発法人産業技術総合研究所 福島再生可能エネルギー研究所 所長の中岩勝氏を講師に迎え「ゼロエミッション社会を目指してー研究開発と課題ー」と題し、再エネ大国と呼ばれる北欧との違いや日本における課題、再エネのコスト低減の重要性などをご説明いただきました。また、東日本大震災により被災した福島・宮城・岩手に所在する地元企業の再エネ技術シーズ支援プログラムをご紹介いただきました。



<第53回> 12月14日(月) 開催

東北福祉大学総合マネジメント学部 教授の鈴木康夫氏を講師に迎え、「震災から10年…私どもが向かうところは？」と題し、「ネットワークの活用」「企業と地域の繋がり」「強みをうまく発揮する」「震災を契機に課題に着手する」など、震災を機に努力とアイデアで躍進している東北の企業をご紹介いただきました。



市民サロンとは、鶴岡高専技術振興会と本校地域連携センターとの共催で、本校と地域内研究機関等の研究者・技術者を講師に、各専門分野の最新情報をわかりやすく提供する市民講座です。

なお、今回は新型コロナウイルス感染予防のため、人数制限を設けて実施しました。

＜第2講＞ 今こそ考えようー健康づくりー 11/9(月)開催



慶應義塾大学 先端生命科学研究所 からだ館の齊藤彩氏、高木慶太氏をお招きし『からだ館の活動から見えてきた「健やかで幸せな生き方」』と題し、からだ館の3つの柱、「調べる 探す」「楽しく学ぶ」「出会う 分かち合う」の活動を中心にご紹介いただきました。

本校からは、基盤教育グループの松橋将太助教が、『免疫力と食事&代謝の関係性～血流を上げて健康維持！』と題してお話しし、身体や脳をリフレッシュする簡単な運動を紹介しました。

＜第3講＞ 今こそ考えようーインターネット活用術ー 12/17(木)開催

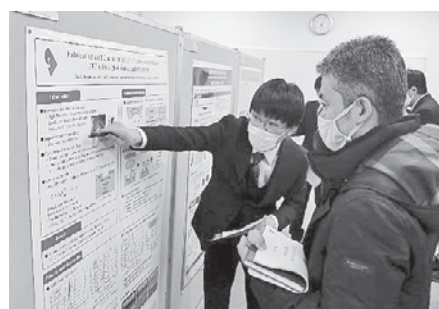


株式会社日情システムソリューションズ 情報システム部の白山雅一氏をお招きし『5G で何ができる？～光回線、wi-fi との違いと、メリット・デメリット～』と題し、5G がスマートフォンの他、IoT や AI に使われ、車の自動運転や医療・ヘルスケア、スマート農業やスマートファクトリーなどの産業にも普及していくことなどをご紹介いただきました。

本校からは、情報コースのサラウッディン ムハマド サリム ザビル教授が、『ICT を活用したニューノーマル時代の職場への手掛かり』と題して、新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けて、ニューノーマルな職場環境の紹介や本校で実施したオンライン授業・在宅勤務制度などについてお話ししました。

地域企業の方に専攻科の研究を知っていただき、本校学生と地域企業の方が直接意見交換できる場として、例年開催しているものです。

本年度は、発表会に先立ち、キャリア教育の一環としてキャリアセミナーを開催し、地域企業2社からそれぞれの業界の現状や今後の展望、求められる人材などについてご講演いただきました。引き続き企業ブース見学に移り、企業ブースを出展いただいた地域企業5社から、各ブースにおいて、学生に対しより詳しい業界の現状や製作している機器についてお話しいただきました。



研究発表では、学生がポスターセッション形式で自身の研究を説明し、教員や企業の方からの質問にも丁寧に答えていました。企業の方々との貴重なディスカッションを経験し、より研究意欲が高まったようでした。

閉会式では、教職員、参加企業の方々の投票で選ばれた優秀ポスター賞2件と鶴岡高専技術振興会賞2件が表彰され、優秀ポスター賞には、手塚大輝君、星川輝君が、技術振興会賞には、本間飛翔君、星川輝君が選ばれました。

令和3年1月に、本科1～3学年を対象に本校校長によるプレジデント講話をオンデマンド型での開催しました。

テーマは「アントレプレナーになろう」です。最初に、高専という独自のシステムについての解説があり、その強みを発揮して高専が地域の中核となるためのポイントについて説明がありました。次に、アントレプレナーに求められる資質について、具体的な企業や商品を例に挙げていくつかの事例を紹介し、そこに向けてこれから学ぶべきことについてお話しがありました。

今回の講話において学生達は、アントレプレナーに必要な「問題の認識と解決」のために、どのように考察し、行動するのか学ぶことができました。

アントレプレナーとして活躍するため、さらに今後の就職活動や、社会人になった際に今回の講話が生きてくることを期待します。



講話の様子

2月17日（水）に本科4年生（就職希望者）を主な対象とした「経営者に会える！県内企業研究セミナー」を開催しました。本セミナーは、「高専卒業生の初任給を大学卒業生と同額に引き上げることを決めた県内企業」の経営者が自ら直接学生に講演を行うもので、今回初めての試みで実施しました。講演には「地域の中小企業が高専卒の優秀な学生を採用するには待遇面の改善が不可欠」という校長の強い思いに賛同した県内11社の中から、製造業やITなど6社をお招きして開催しました。

今回ご参加いただいたのは、講演順に次の6社です。

株式会社長栄精密 様（山形市）
株式会社ハイテックシステム 様（山形市）
株式会社セーブ 様（鶴岡市）
斎藤マシン工業株式会社 様（天童市）
株式会社石井製作所 様（酒田市）
株式会社イタガキ 様（三川町）



ご講演の様子（(株)長栄精密様）

パネルディスカッションの様子
（左から中川氏、石井氏、後藤氏、高橋校長）

引き続きパネルディスカッションが行われ、斎藤マシン工業(株)の中川社長、(株)石井製作所の石井社長、(株)イタガキの後藤総務部長にパネリストとしてご登壇いただきました。高橋校長がモデレーターを務め、事前に学生から寄せられた質問に回答いただく形で進められました。

学生からは、大企業にはない中小企業の魅力や採用する時に重視するものを尋ねる質問の他、高専卒業生に足りないものや高専卒業生を採用するメリットなど、短い時間に多くの質問が寄せられ関心の高さが伺えました。

セミナー後のアンケートでは学生から「中小企業のことを知る機会になってとても参考になった」「これまでのセミナーとは違い、経営者の生の声を聞くことができこれからの就職活動の励みになった」という声が寄せられました。県内企業の魅力を学生に知ってもらい、働く意識を高め、将来像を描くきっかけになったセミナーとなりました。

この賞は、鶴岡高専技術振興会（会長：皆川治鶴岡市長）が、本校における学術研究活動や地域連携（地域貢献）活動等において、特に顕著な業績をあげた学生及び学生団体を顕彰し、今後の学業推奨を図ることを目的に平成 24 年度に創設されたものです。

今年度は、本校校長・本校地域連携センター長の推薦に基づき、個人 1 名と 1 団体に決定し、3 月 16 日（火）鶴岡市役所庁議室において表彰式が行われました。



左から西田さん、小林さん、齋藤さん、皆川会長、伊藤さん

◆伊藤 千紗（専攻科 生産システム工学専攻 応用化学コース 2 年）

「省エネや省資源化につながる低摩擦材料の研究」で数々の表彰を受け、また著名な学会で発表を行うなどの研究成果が評価されました。

◆テクノ・パラメディック（代表：齋藤 夕綺、メンバー：西田 統尊、小林 勇登）

本県唯一の離島「飛島」において 10 年以上にわたり家電や観光用自転車の修理等を通して島民支援に尽力してきた実績が評価されました。なお、コロナ禍で島に渡ることができなかった本年度も、自作のフェイスシールドを島民に贈るなど、今できる活動を継続してきました。

10 月 18 日に「高専ロボコン 2020 東北大会」が開催されました。今年度は各キャンパスで遠隔によるオンラインロボコンとなり、カメラでロボットを撮影し、各校から中継する形で行われました。テーマはなんでもありのパフォーマンスをすることです。本校からは「書家七色ころも」という、書道をするロボットが参加しました。漢字で「心」を書くことができたが、残念ながら決勝トーナメントに進むことはできませんでした。



パフォーマンスの打ち合わせの様子



校長（前列左）、和田准教授（後列右）と部員

12 月 5 日～6 日に「全国高専デザインコンペティション」がオンラインにて開催されました。今年度出場した「プレデザコン部門」は、3 年生までのチーム構成で、3D プリンタで造った作品を分銅 200g を乗せた状態で落下させる競技です。本校からは、A チーム「単位号」と B チーム「アベシカ」の 2 チームが出場しました。B チーム「アベシカ」は、計測記録は 2 位でありながらも搭載している分銅の落下により惜しくも失格となりました。A チーム「単位号」は、計測記録は 4 位でしたが、B チームの失格により 3 位に繰り上がり特別賞を受賞しました。

編集・発行

■鶴岡高専地域連携センター

〒997-8511 鶴岡市井岡字沢田 104

Tel : 0235(25)9453

E-mail : techno@tsuruoka-nct.ac.jp

■鶴岡高専技術振興会（（公財）庄内地域産業振興センター 内）

〒997-0015 鶴岡市末広町 3 番 1 号

Tel : 0235(23)2200

E-mail : info@shonai-sansin.or.jp